

【議事録】概要

会議名	飲食機能専門部会（第1回）	会場	芦屋町役場 44会議室			
日時	平成30年8月7日（火） 19:00～20:30					
件名・議題	<p>1 辞令交付</p> <p>2 会長・副会長の選出</p> <p>議事</p> <p>（1）これまでの経緯及びデスクリサーチ結果について（説明）</p> <p>（2）事業者ヒアリングの結果について（説明）</p> <p>（3）ターゲット及びコンセプトについて</p> <p>（4）その他</p>					
	会長	浦野 恭平	出	副会長	河村 拓磨	出
		武谷 晋平	出		須河内 美紀	出
合意・決定事項	今回出た意見を整理し、それを踏まえて、次回の合同専門分科会の際に、ターゲット及びコンセプトをすり合わせながら検討を行う。					

第1回 飲食機能専門分科会 議事録

1 副町長挨拶

芦屋町は、地図で見ると芦屋町と水巻町が同じ面積、芦屋町と水巻町を足すと遠賀町、その3つを足すと岡垣町の面積になる。実際の面積になると11.6 km²であり、芦屋町の中には、航空自衛隊、遠賀川があり、そこが行政区として3割を占めており芦屋町の面積は約8 km²になる。このような中、芦屋港は緑地も含めると広大な敷地となっている。また芦屋港は産業港だが、実際は産業港として活用されていない。

今回は、この芦屋港を活性化するという事で、取組を行っている。芦屋港活性化の中で求める機能のひとつとして飲食機能で皆様にご参加頂いている。今年度中に全体計画をまとめることがミッションであり、皆様の忌憚のない意見を頂き飲食機能について、方向性をまとめて頂きたい。

2. 辞令交付

- 「芦屋港活性化推進委員会設置条例」第9条に基づき、委員を代表して、浦野氏に委員の辞令交付。

3. 委員長・副委員長の選出

- 委員長・副委員長の選出は事務局一任。
- 会長に浦野委員、副会長に河村委員を事務局より推薦。
- 満場一致

4. 議事

(1) これまでの経緯及びデスクリサーチ結果について

[事務局]

- 説明資料1～3に基づき事務局より説明
 - ・資料1は全体の概要とこれまでの検討状況をまとめたもの。資料2と3は、昨年芦屋港活性化推進委員会にて配布・説明した資料と同様であるが、今回の検討にあたって参考となる情報があるため、観光入込客や周辺施設に関する部分を説明。

(2) 飲食事業者ヒアリング結果について

[事務局]

- 説明資料4に基づき事務局より説明
 - ・資料4は芦屋港への出店可能性のある民間事業者5社に実際に出店意欲の可能性を前提に直接聞き取り調査し、その結果を基に課題整理したもの。

(3) ターゲット及びコンセプトについて

[事務局]

- ターゲット、コンセプトの説明を受け、質疑または議論を進めて頂きたい。

[会長]

- これまでの説明の中で、疑問点、確認点や気になる点があればご意見頂きたい。
本日は集約ではなく玉出し。資料を共有する事、感じたこと等沢山ご意見頂きたい。

[委員]

- 資料1の22ページ。想定する導入機能の中で、洗礼された店舗、海に見えるイタリアンや女性が好む雰囲気と記載があるが、洗礼された店舗は山ほどあり、長持ちしない可能性が高く、一度来たら来ないイメージがある。

[委員]

- 資料5のぶどうの樹のヒアリングシートに記載があるが、「あかぬけない」はキーワードとして芦屋港を捉えられている。沖縄の公設市場のように、魚を買ってその場で調理してもらうお店は、洗礼されていないが、廃れずあかぬけてない。そこに人と人とのコミュニケーションが生まれる。今の時代はそういうものが求められている。敢えて「あかぬけない」=息の長い店が必要ではないか。

[委員]

- 平日は料理教室、キッチンスタジオとして貸し出しする事で運営側としてもコストがかからない。料理教室やワークショップをする方々が多く、安く借りられる、ロケーションがいいとなると、ニーズも高い。また情報発信力も高い。週末の場合、アルコールを飲む層を考えれば、糸島のように素泊1泊5,000円程度で泊まれる宿泊を好む層もいるのではないか。

⇒ あかぬけない店、美味しい魚が食べられる店が芦屋らしいと思うか。〔会長〕

⇒ イタリアンでも良いが、東京の銀座に「ピア晴海」という割とあかぬけた漁港のような店がある。銀座から距離がありタクシー移動しないといけない場所にあるが、女性に非常に人気がある。待ち時間に魚を選び、缶ビールを飲みながら待つスタイル。中に入ると食べ方の希望を聞かれて、イタリアン風味や刺身等のリクエストに応じてくれるスタイルの店。ここから見える花火や夜景がきれいで、わざわざ行く人が沢山いる。〔委員〕

※「ピア晴海」とは、ニュートーキョー系列のシーフードレストラン。生け簀があり、好きな魚介類を選び、調理してもらえる。食べ物のメニューは豊富。1998年に閉鎖。

〔会長〕

○ 近隣で成功している場所はあるか。

⇒ ぶどうの樹。グランピング等の流行しているものは長くは続かないと感じる。

波津の海岸は、寿司屋（鮭屋台）、割烹（八幡屋）があり、高いものが食べたい方は寿司屋、安いものであれば定食やバイキングなど選べる形式も良い。〔委員〕

〔委員〕

○ あかぬけたものより、あかぬけしない方が芦屋らしい。ターゲットについては、イタリアンより芦屋で新鮮な魚が食べられる等、描いているイメージは親子が楽しめる方が良い。親子であれば世代が変わっても長く続いていく。若い女性の場合は結婚、出産すると店に来なくなり、次の世代に続いていかない気がする。

レジャー港で考えると、親子にテーマに絞った形で、親子で楽しむ等、釣った魚をその場で捌く、泳いで釣りして楽しめる。わざわざ来て、そこに滞在することで、一つの思い出になるイメージが良い。

〔会長〕

○ ターゲットについては、非常に難しい部分がある。親子連れにするか、女性にするか、どのターゲットを狙うかによってメニューやコンセプトが変わってくる。

食に付帯する機能性も、コミュニケーションあるいはレジャーボート、海釣りと食機能同士の連携も必要であると考えられる。漁協の立場からの意見を聞かせて頂きたい。

⇒ 芦屋町としての特色を出すには、地の物を出すのが良いと思う。当然、規模の問題、組合が出している漁種では少ない。漁獲量や魚種も限られてくる。その中で組合が提供するものだけでは厳しいと感じる。〔副会長〕

[会長]

○ 魚種は固定されるのか。

⇒ 1本釣り、網の漁がメインで、出ている期間が半年（6月～11月）で決まっている。

その間は色々かかるが、ヤリイカかサワラが中心である。〔副会長〕

[会長]

○ 魚種の少なさは、他の素材で組み合わせは可能か。また芦屋の魚を使いながら他食材を使用すれば改善になるのか。

[委員]

○ 今の時代、美味しいものを食べてきた人が多い。魚が少なければ自分で釣って捌く所に面白さを感じている。知人のご主人で毎週4時に起きて芦屋に釣りに出かけている方がいる。実際は釣ってはいけないエリアに通っている。釣ってはいけないエリアは人が沢山いる為、あのエリアをオープンに出来れば良いと思う。親が釣って、親子で捌いて食べる。例え釣った魚が小さくても、親子のコミュニケーションが生まれて良いと感じる。

[会長]

○ 関わっていくことで、生産者との関わりや親子で話が出来、コミュニケーションが生まれるということが重要である。

[委員]

○ フィッシングイベントに参加したら、漁師が色々教えてくれる。そうすると親子で釣りに行こうと繋がるのではないか。知らない食材の食べ方、行ってみて初めて知ると、そこには新しい発見がある。

漁師しか知らない情報、ひいては人は人を好きになり、芦屋町を好きになってもらう、目的は芦屋にいる人を好きになってもらう。

[会長]

○ 漁師が関わっていくのは若手中心にあるのか。

⇒ 青年部の中では、朝市、体験、捌き方教室をしていきたい意見はある。若手の方が実施に協力できると思う。〔副会長〕

[会長]

○ 継続的な問題も考えられる。港全体に新しいレストランが出来て、バックヤードにい

るスタッフが疲弊する事は良くない。協力体制は大事である。

[委員]

- 単体では失敗する事が多いため、芦屋町の活性化、町外から来てもらう、どんなものが必要かの全体像があり、リーダーが必要と思う。箱だけ作ってもPRしないと誰にも来てもらえない。核となる部分が重要と思う。

[会長]

- 芦屋町全体のブランディングの方向性。今回は港の話が進んでいるが、「○○の町 芦屋」のブランディングはどうか。
- ⇒ 観光あしや協議会というプラットフォームをつくり、様々な事業者が連携する仕組みを作ったが、まだブランディングまで進んでいないのが現状ある。地方創生の流れの中で芦屋町の方向性では、シビックプライド、町を好きになってもらう、町を知ってもらう、ファンになってもらうという方向性と、夏以外の集客を高めていくため、着地型商品を少しずつ増やしていくといった取り組みをやっている。[事務局]

[会長]

- シビックプライドは、何を持ってシビックプライドなのかが重要である。
- ⇒ シビックプライドに関して、どういう取組をしていくか、今まさに課題であり、具体的な取り組みはまだである。[事務局]

[会長]

- 行政が音頭を取って、共有できるものが必要である。コンセプトがバラバラでは来訪者からすると、混乱し継続していくのは難しいと感じる。町全体のコンセプト、港のコンセプトを継続して考えていく中で食、情報発信、イベント、機能間の連携のあり方を考えていくことが必要である。
- 資源の持ち手が違うため、協力できる組織や、人づくりの継続が必要であり、コンセプトと人を埋めていくことが、今回の4分科会で進めていくには必要であると思う。1つブランディングができ、シビックプライドができればと感じる。全体を受けて感想やご意見頂きたい。

[委員]

- 芦屋町は町外から見ると、良いものが沢山あるが、それぞれが独立して機能している。町内から見てもまとまりがないのを感じる。まとめて情報発信や動く事は大事と思う。

[会長]

- 芦屋らしさが大事である。会議を通じて何か考えることが出来ればと思う。色々な方

をターゲットにすると、色であったり、トイレ作り1つにしても、1本の柱がないと軸がぶれると思う。事務局の方から何かあればお願いしたい。

⇒ 飲食部会であるが、全体のコンセプト等のご意見頂きたい。海釣り機能も併せた中で、魚食体験を1つの柱として、第1弾の機能とし、機能と機能の組み合わせや連携といったことを、意見を頂きながら、最終的に全体的な活性化に繋げていきたい。整理しながら、次回は直売の意見もまとめて進めていきたい。〔事務局〕

〔事務局〕

○ 次回は、「道の駅萩しーまーと」の中澤さかなさんに来て頂く。「道の駅萩しーまーと」は地元をターゲットにして作られた施設で、多くの観光客が訪れる施設という事で、立ち上げに関わられた中澤さかなさんに来て頂き、事例や今後のアドバイスを受けて色んな活性化にご意見頂ければと思う。

〔会長〕

○ ぶれないコンセプトで、グランドコンセプトを作っていく事が大事である。町のシビックプライドを持つ、〇〇の芦屋町について、次回までにご意見頂きたい。

(4) その他

○ 事務局より事務連絡と次回日程の周知。

以上